

# 平成28年度 蟹江北中学校 自己評価

## (1) 成果

- 「学校生活を楽しく送ることができているか」「部活動に意欲的に取り組んでいるか」「行事に意欲的に取り組んでいるか」の項目は、生徒、保護者、教師ともに評価が高い。生徒にとって部活動や学校行事の充実が学校生活の楽しさにつながると考えられる。良い傾向にあるので、この状態を維持できるよう今後も見守っていききたい。
- 「校則を守っているか」については、生徒や保護者の評価が高く、「きちんとした生活をしていこう」とする意欲が高まってきているようである。とはいえ、教師から見た生徒評価はやや低い。日々の指導を継続して行うとともに変化を認め達成感を味わわせることで一層の成長を促したい。
- 「いじめや差別をしていないか」について、生徒や保護者の評価が高く、人間関係に対する意識の高まりが感じられる。本校の指導の柱である人権教育の成果であると考えられる。ただ、全体的には満足のいく状況ではあるが、「できていない」生徒が8名いるところは注意してみたい必要がある。

## (2) 課題

- 「時と場に応じた言葉遣いができているか」については、生徒・保護者と教師との感じ方にギャップがある。悪気があって使っているのではないが、教師側が許してしまっている現状があるのではないかと。なれ合いにならず、毅然とした態度で指導をしていく。
- 「挨拶ができているか」については、生徒との感じ方にギャップがある。アンケートの期間中に生徒会のあいさつ運動の取り組みがあり、生徒の意識が高くなっていると考えられる。このような取り組みを効果的に活用していく。
- 「授業内容が理解できているか」「わからない点を質問できているか」という点について、保護者、生徒ともに「できていない」と感じている数が多い。不安の表れであり、個々に配慮した授業形態の工夫等、生徒への配慮や教師の授業力の向上が必要である。
- 家庭学習の習慣が不十分である。学習の定着を図ろうと宿題を出すのが、未提出となる。家庭と連携し学習習慣を身につけさせたい。
- 「いじめ」については、生徒や保護者とも高い評価となっている。全体的には満足のいく状況ではあるが、「できていない」生徒が8名いるところは注意してみたい必要がある。
- 「交通ルールを守る」については、近隣からの苦情も減ってはきているが、何件かはある。マナーに対する意識が甘い。命に関わることなので、交通マナーや登下校指導の徹底をするなど、意識の改善が必要。
- 「努力を認められているか」については、あまり認められていないと感じている生徒がやや多い。こまめに声をかけながら、認め賞賛する機会を増やし達成感を味わわせることで、様々なことに取り組もうとする意欲を高めていきたい。